

教科等研究会（中学校社会科部会） 令和3年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

民主主義の担い手に必要な資質・能力を育む社会科の探求
～社会的な見方・考え方を働かせる「問い」を通して～

2 研究経過

期日	活動内容	活動場所	人数
6月7日	第1回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 本年度研究テーマ協議、研究組織づくり等	益城町立 木山中学校	21名
8月20日 中止	第2回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 地域巡検 ・株式会社 果実堂（テクノリサーチパーク内） ・熊本国際空港株式会社	/	/
10月25日	第3回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 研究授業および授業研究会（分散開催）		
	【地理的分野】1年生「アジア州」 授業者：甲佐町立甲佐中学校 西田美咲樹 教諭	甲佐町立 甲佐中学校	6名
	【歴史的分野】1年生「中世の日本—武士政権の成立—」 授業者：御船町立御船中学校 古庄紘樹 教諭	御船町立 御船中学校	7名
	【公民的分野】3年生「三権分立のしくみと私たちの政治参加」 授業者：益城町立益城中学校 上村綾太 教諭	益城町立 益城中学校	6名
1月27日 中止	第4回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 実践報告会（レポート研修）、今年度反省	益城町立 木山中学校	21名

3 研究の概要

(1) 研究の内容

県社研の研究テーマと同じ「民主主義の担い手に必要な資質・能力を育む社会科の探究 ～社会的な見方・考え方を働かせる『問い』を通して～」のもと、「単元を通じた課題設定」や「見方・考え方を働かせるための問いの工夫」を実践項目の柱として研究に取り組んだ。

今年度から中学校では新学習指導要領が全面施行され、3観点での評価や学習構想案の作成など、社会科においても大きな変革の年度を迎えている。そこで、本部会では「単元を通じた課題設定」や「見方・考え方を働かせるための問いの工夫」について各会員が授業実践し、年度末に実践報告をする研修計画を立てた。一人一人が実践することで、新学習指導要領への理解が深まり、新学習指導要領に則った授業へスムーズに転換できると考えたためである。また、若手、中堅、ベテランの教員がそれぞれの実践を持ち寄り、意見交換することで、互いに刺激し合いの授業に役立てることができると考え研究を進めた。

(2) 成果と課題（○成果 ●課題）

- 地理・歴史・公民の三部会に分け、「単元を貫く課題設定」や「見方・考え方を働かせるための問いの工夫」などについて部会で議論し合う中で、構想案作成や研究授業実施ができた。
- 会員一人一人が授業実践し、研究を深めることができた。
- 授業実践を通して、「話し合い活動」についてはどの学校も課題がある。主体的・対話的な学びを実現するために、授業のどのタイミングで話し合わせるのか、どのような形式で話し合わせるのかなど、話し合い活動に磨きをかけていく必要がある。
- コロナ禍による研修の中止により、残念ながら第2回（夏季巡検）と第4回（レポート研修）は中止となってしまった。今後はリモート開催なども検討していきたい。

4 実践事例

(1) 授業の概要

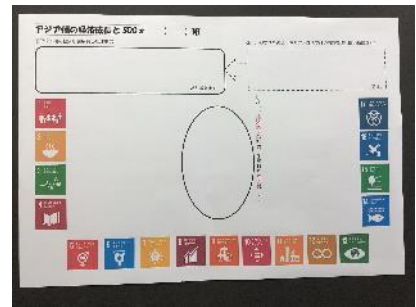
① 地理的分野 1年「アジア州」 授業者：甲佐中学校 西田美咲樹教諭

授業者は単元終了時にめざす生徒の姿として、「アジア州に住む一人として急速な経済発展と課題について関心をもち、より良い世界を目指そうとする生徒」をイメージして授業を構想した。

本時の授業では、アジア州がさらに発展するために必要なことを、グループで考える探究活動を取り入れた。見方・考え方を働かせる工夫として、SDGsと結びつけながら考える工夫が見られた。また、UDを意識した学習シートの工夫などにより、生徒の意見を引き出すことができていた。



〔グループでの話し合い〕



〔思考を促す学習シート〕

授業研究会では、単元を通した活動が設定されていてよかったが、本時だけでなく各時間で積み上げをしていくことが大事」という指摘がなされ、単元のゴールに向けて毎授業をどのように構築していくかの重要性が確認された。

② 歴史的分野 1年「中世の日本—武士政権の成立—」 授業者：御船中学校 古庄紘樹教諭

古庄教諭は、単元を通した課題として「武士中心の政治は、どのタイミングで始まったといえるだろうか」としていたため、本時の学習課題を「なぜ、源頼朝は太政大臣にならなかったのだろうか」と設定して生徒に探究活動を行わせた。

授業では、個人持ちの資料やヒントカードなどが用意され、生徒がグループで話し合いながら自分たちで探究する姿が見られた。

授業研究会では「学習課題が工夫しており、生徒の興味関心を高め、『なぜ』という問いを生じさせるものであった」という意見が多かった。

一方で、授業者が自評で述べた「生徒の学び合い（話し合い活動）をどう活性化させるか」の手立てについては様々な改善案が出された。主体的・対話的な学びを実現するために、本部会の今後の研究課題としていきたい。



〔学習課題の提示場面〕



〔探究活動の様子〕

③ 公民的分野 3年「三権分立のしくみと私たちの政治参加」 授業者：益城中学校 上村綾太教諭

上村教諭は「なぜ、三権分立のしくみを取り入れられ、私たち国民の参加も考えられているのだろうか」という単元を通しての課題を設定し、その解決に向けて、裁判員裁判について生徒に議論させた。

授業の中では、裁判員制度をよりよい制度にするためにどうしたら良いかを資料を参考にしながら中学3年生の視点で議論し合う姿が見られた。また、教師がICT機器を上手に活用して説明したり、生徒がタブレットで調べ物をしたりするなどICT活用が図られていた。授業全体として、生徒が活発に活動し、考える授業であり、参観者の参考になった。



〔ICT機器の活用場面〕

事前研や授業研究会では、裁判員制度についての肯定的な意見を支える資料が少ないことが課題として挙げられた。資料を収集・選定する方法や発問の仕方について意見交換した。

(2) 学習構想案 ※歴史的分野 古庄教諭の構想案より抜粋

1 単元構想

単元名	「中世の日本—武士の政権の成立—」東京書籍「新しい社会 歴史 pp64-73」		
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> 古代から中世に移り変わった社会の変化について関心をもち、意欲的に追究する。 古代から中世へ変化する過程について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現する。 武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立が日本社会に与えた影響に関する資料を適切に読み取ったりまとめたりし、その知識を身に付ける。 		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>〈知識〉 武士の台頭から、政治への進出、武家政権の成立とその影響について理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>〈技能〉 知識習得の過程で、資料から必要な情報を読み取っている。</p>	武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立が日本社会に与えた影響や、古代から中世に移り変わった社会の変化の過程を、多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。	武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立が日本社会に与えた影響や、古代から中世に移り変わった社会の変化について関心をもち、意欲的に追究している。
単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
前の時代の政治体制や文化と比較しながらその時代の政治体制や文化の特色を見いだしたり、時代の転換点を考えたりするといった視点をもった生徒。			
単元を通した課題（単元の中心的な課題）		本単元で働かせる見方・考え方	
武士中心の政治は、どのタイミングで始まったと言えるだろうか		古代の日本と比較しながら中世の日本を特徴づけていくという、諸事象の比較に関わる視点	
指導計画と評価計画（6時間取扱い 本時3／6）			
次	時	学習活動	具体的評価規準
一	5	<p>①武士の成長</p> <p>武士はどうやって力をつけていったのか。</p> <p>武士が摂関家に仕え、地方へ土着する中で武士団として組織された過程を理解する。</p>	<p>【具体的評価規準】〈ワークシート〉</p> <p>武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立とその影響について、必要な情報を集め、読み取ったりまとめたりしている。（知・技）</p>
		<p>②院政から武士の政権へ</p> <p>平清盛と摂関政治の類似点を考えよう。</p> <p>武士が政治の実権を握った過程について、平清盛のねらいに注目して理解する。</p>	<p>【具体的評価規準】〈ワークシート〉</p> <p>平清盛は官位を高め、天皇と血縁関係を結ぶことで、朝廷内で権力を強めたことを、資料から読み取っている。（知・技）</p>
		<p>③鎌倉幕府の成立</p> <p>なぜ源頼朝は太政大臣にならなかったのだろうか。</p> <p>源頼朝による鎌倉幕府の成立によって、公家や貴族の力が強い朝廷から独立して、武士を中心とした新しい政権が樹立されたことを考察する。</p>	<p>【具体的評価規準】〈ワークシート〉</p> <p>東国武士団の棟梁であった源頼朝は、貴族的性格であった平氏政権に変わって、武士を中心とした政権を樹立するために、在京の必要がある太政大臣ではなく、朝廷から独立して権限を発揮できる征夷大將軍の地位に就いたことを説明することができる。（思・判・表）</p>
		<p>④執権政治と承久の乱</p> <p>承久の乱は、幕府と朝廷にどのような影響をもたらしたか。</p> <p>承久の乱後に西日本にも地頭が置かれたことを捉え、鎌倉幕府と朝廷の力関係について、多面的・多角的に考察する。</p>	<p>【具体的評価規準】〈ワークシート〉</p> <p>承久の乱によって鎌倉幕府の力が朝廷を上回ったことを、地頭の分布や六波羅探題の設置から考察することができる。</p>
		<p>⑤武士と民衆の生活</p> <p>鎌倉時代の武士や民衆の生活は、以前とどう変わったか。（単元のまとめ）</p>	<p>【具体的評価規準】〈ワークシート〉</p> <p>鎌倉時代の武士は武芸に励み、国司との二重支配をしながら地方で暮らしていたことを理解する。</p>
二	1	<p>⑥鎌倉時代の文化と宗教</p> <p>鎌倉時代の文化・宗教の特色を捉え、それらが広まった理由について、多面的・多角的に考察する。</p>	<p>【具体的評価規準】〈ワークシート〉</p> <p>鎌倉時代の文化・宗教に武士の気風が影響を与えていることを、鎌倉時代の仏像と奈良時代・平安時代の仏像を比較することから考察することができる。</p>

4 本時の学習

(1) 目標 東国武士団の棟梁であった源頼朝は、貴族的性格であった平氏政権に変わって、武士を中心とした政権を樹立するために、在京の必要がある太政大臣ではなく、朝廷から独立して権限を発揮できる征夷大將軍の地位に就いたことを説明することができる。(社会的な思考・判断・表現)

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の反応)	○指導上の留意事項
導入	5分	1 前時の復習を行う。 ◇平清盛は武士で初めての太政大臣になり、政治を行った。 ◇清盛の政治は摂関政治に似ていた。 2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 【学習課題】なぜ、源頼朝は太政大臣にならなかったのだろうか。 </div>	○「問い」を生み出す手立て ・平清盛は律令制の最高官である太政大臣となったのに、その平氏を倒した源頼朝はそれよりも低い位(権大納言・右近衛大将)に就いたという事実を提示することで、学習者に「なぜ」という問いを生じさせる。
展開	35分	3 学習課題に対して予想をつくる。 ◇武士なので朝廷の官位にこだわっていないか。 ◇自分で新しい政治のしくみをつくらうとしたからではないか。 ◇平清盛と同じになってしまうと考えたからではないか。 4 課題解決に向けて見通しをもつ。 ◇太政大臣と征夷大將軍の違いを調べる必要がある。 ◇平清盛と源頼朝がめざした政治の違いやその背景を調べる必要がある。 5 グループでの探究活動を行う。 ◇太政大臣は都にいる必要があるが、征夷大將軍は都から離れて権限が行使できる。 ◇源頼朝は武士の土地を保障することで配下を増やしている。 ◇平清盛は平氏一族で高い位を独占したが、源頼朝は多くの武士(御家人)を守護や地頭にしている。 ◇頼朝の政治は武士が中心となった政治だ。 6 探究の成果を共有する。 <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> 【期待される学びの姿】 平清盛と源頼朝を比較する活動の中で、源頼朝の政治は公家や貴族から独立した武家政権としての性格が強いことに気づいている。 </div>	○予想が困難な生徒への手立て ・ペアトークや全体での話し合いをすることによって、他者の考えに触れさせる。 ・他者の考えを複数聞いて、自分が一番納得する考えはどれか考えさせる。 ○課題解決に向けた見通しを持つ手立て ・太政大臣や征夷大將軍といった官位にはどんな権限があるのか調べる。 ・源頼朝がめざした政治について調べる。 ・源頼朝と平清盛の勢力基盤の違いを調べる。 以上の内容を、生徒の予想を踏まえつつ示す。 ○見方・考え方を働かせて課題解決に向かう手立て ・平清盛の政治と源頼朝の政治の比較 ○言語活動の設定及び設定の意図 ・生徒間の学び合いを通して表現力を高め、協働的に知識を創造させるため。 ○探究につまずきのあるグループへの手立て ・机間指導でヒントを与える。 ・アシストシートの配付 ○到達していない生徒(グループ)への手立て ・発表させた内容を基に、不十分なグループには問い直しやつまずきを自覚化させる。
終末	10分	7 学習課題に対して回答する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 【まとめ】 関東の武士の代表だった頼朝は、一族で高い位を独占していた平氏に代わって、武士を中心とした新しい政治のしくみを朝廷から離れたところで行うために太政大臣にならなかった。 </div> 8 発展的な課題に取り組む。 ・源頼朝は朝廷を倒そうとはしなかったのだろうか、自分の考えを書いてみよう。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【具体的評価基準(一枚ポートフォリオ)】 A:B基準に加え、頼朝が武士中心の政治をつくらうとした背景を説明している。 B:源頼朝が、朝廷から離れたところで武士を中心としたそれまでと異なる政治のしくみをつくらうとしたことを説明できている。 C:B基準に満たない記述 </div>